

InternetDisk ASP 自動実行機能

メンバーマニュアル

2020/2/21 版

ジャストシステムは、個人情報保護コンプライアンス・プログラムを策定し、お客様情報の保護を図っています。利用規約にて定めるとおり、InternetDisk ASP に関する業務以外の目的でお客様情報を使用することはありません。

- 本製品は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、本製品にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
 - 「インターネットディスク」「InternetDisk」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。
 - Microsoft、Windows、Internet Explorer、Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
 - Firefox は、米国 Mozilla Foundation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - Mac、macOS、Safari は、米国 Apple Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - Adobe Reader、Photoshop は、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびに他の国における登録商標または商標です。
 - 商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ビーの登録商標であり、弊社は商標使用許諾を受けています。
 - その他記載された会社名、製品名等は、各社の登録商標もしくは商標、または弊社の商標です。
 - 本マニュアル（紙媒体または電子データで提供するものを含みます）は株式会社ジャストシステムが作成したものであり、マニュアルの著作権は、株式会社ジャストシステムに帰属します。
- 使用許諾契約書の条項のほか、以下の点も合わせてご確認ください。
1. お客様は、マニュアルを現状の内容のまま、もしくは編集・修正して、画面上もしくは紙資料として利用することができます。ただし、これを第三者へ提供したり、貸し出したりすることはできません。
 2. マニュアルの内容の一部または全部を、株式会社ジャストシステムの書面による許可なく複写、複製して頒布することは、その形態を問わず禁じます。
- マニュアルの内容は予告なく変更することがあります。

©2020 株式会社ジャストシステム

目次

自動実行機能概要	5
自動実行機能の用語	5
ファイル操作	5
タスク	6
スケジュール	6
タスク実行までの流れ	8
インターネット ディスクをメンバーが利用できるよう 設定する	8
タスクを作成する	8
タスクをメンバーに割り 当てる	9
タスクに同意する	9
タスクが実行される	9
利用例：定期的なファイルの受け渡し	10
自動実行機能を利用しない場合	10
自動実行機能を利用する場合	11
メンバーの作業	13
自動実行ツールを入手し、セットアップする	13
自動実行ツールの入手先	13
自動実行ツールをセットアップする	13
自動実行ツール起動時の動作	14
自動実行ツールを起動する	15
自動実行ツールを起動する	15
ログイン	16
自動実行ツールを終了する	19
タスクに同意するかしないかを選択する	20
タスクの同意を取り 消す	21
タスクを最新の状態に更新する	21
自動実行ツールの実行環境を設定する	21
アカウント 情報を設定する	22
通信環境を設定する	22
オプションを設定する	24

パスワードを変更する	25
タスクの実行結果を確認する	26
自動実行結果ビューアを起動する	26
付録	28
自動実行ツール・自動実行管理ツール エラーメッセージ一覧	28

第 1 部

自動実行機能概要

自動実行機能概要

自動実行機能は、InternetDisk ASP 上のファイルに関する作業を事前に設定した日時に自動的に実行するために用いられます。自動実行機能を用いると、定期的なファイルの受け渡しを効率的に行えます。

補足：自動実行機能はオプションサービスです

自動実行機能は InternetDisk ASP のオプションとして、別料金で提供されるサービスです。この機能を利用するには、メンバー管理者が契約を申し込む必要があります。

自動実行機能の用語

自動実行機能では、ファイル操作・タスク・スケジュールという用語を使います。

ファイル操作

自動実行機能では、InternetDisk ASP 上のファイルに関する操作をファイル操作と呼びます。

ファイル操作の種類

次の3種類があります。

アップロード

メンバーのコンピュータからインターネットディスクへ、ファイルやフォルダをアップロードします。

ダウンロード

InternetDisk ASP からメンバーのコンピュータへ、ファイルやフォルダをダウンロードします。

削除

InternetDisk ASP 上のファイルやフォルダを削除します

補足：共同編集ファイルとファイル操作

共同編集ファイル¹は、自動実行機能でダウンロードすることは可能です。しかし、自動実行機能でアップロードしたり削除したりすることはできません。

¹ InternetDisk ASP のオプションサービスである共同編集機能を利用している場合に作成されます。

ファイル操作の対象

ファイルまたはフォルダを指定できます。

ファイルを指定した場合

指定した1つのファイルが、ファイル操作の対象です。

フォルダを指定した場合

指定したフォルダの下にあるすべてのファイルがファイル操作の対象です。例えば、お使いのコンピュータで複数のファイルを1つのフォルダにまとめることで、1タスクですべてアップロードできます。

タスク

1つまたは複数のファイル操作をまとめたものを、タスクと呼びます。自動実行機能では、ファイル操作がタスク単位で設計・実行されます。

スケジュール

それぞれのタスクには、スケジュールが設定されます。スケジュールは自動実行が行われる日時を定めるもので、日にち間隔・曜日・日付・月日という4つの指定方法があります。

● 日にち間隔指定

タスクを実行する間隔（何日に一回実行するか）・基準日時・開始時刻を指定します。タスクの初回実行予定日は、基準日時当日かその翌日になります。2回目以降は、間隔で指定した日にちごとに実行されます。

【設定例】

項目	値
間隔	2日に一回
基準日時	2006年1月1日0時0分
開始時刻	10時0分

【設定例でのタスク実行予定日時】

初回	2回目	3回目	...
2006/1/1 (日) 10:00	2006/1/3 (火) 10:00	2006/1/5 (木) 10:00	...

● 曜日指定

タスクを実行する間隔（何週に一回実行するか）・曜日・基準日時・開始時刻を指定します。タスクの初回実行予定日は、基準日時以降の指定していた曜日になります。曜日は「火・木」のように複数指定することもできます。

【設定例】

項目	値
間隔	2週に一回
曜日	火・木
基準日時	2006年1月1日0時0分
開始時刻	10時0分

【設定例でのタスク実行予定日時】

初回	2回目	3回目	...
2006/1/3 (火) 10:00	2006/1/5 (木) 10:00	2006/1/17(火) 10:00	...

- **日付指定**

タスクを毎月の何日に実行するのかという日付と、開始時刻を指定します。日付は、「1・11・21」日のように複数指定することもできます。なお、31日を指定したタスクは、31日までである月（1月、3月、5月、...）でのみ実行されます

【設定例】

項目	値
日付	1・11・21
開始時刻	10時0分

この設定では、毎月1日・11日・21日の10時0分にタスクが実行されます。

- **月日指定**

タスクを実行する月日と、開始時刻を設定します。

【設定例】

項目	値
月日	1月1日
開始時刻	10時0分

この設定では、1月1日10時0分にタスクが実行されます。タスクを削除しなければ、毎年1月1日10時0分にタスクが実行されることとなります。

タスク実行までの流れ

InternetDisk ASP のメンバー管理者とメンバーが次の手順で作業を行うことで、タスクは実行されます。主に、メンバー管理者は自動実行管理ツール、メンバーは自動実行ツールを使って作業します。

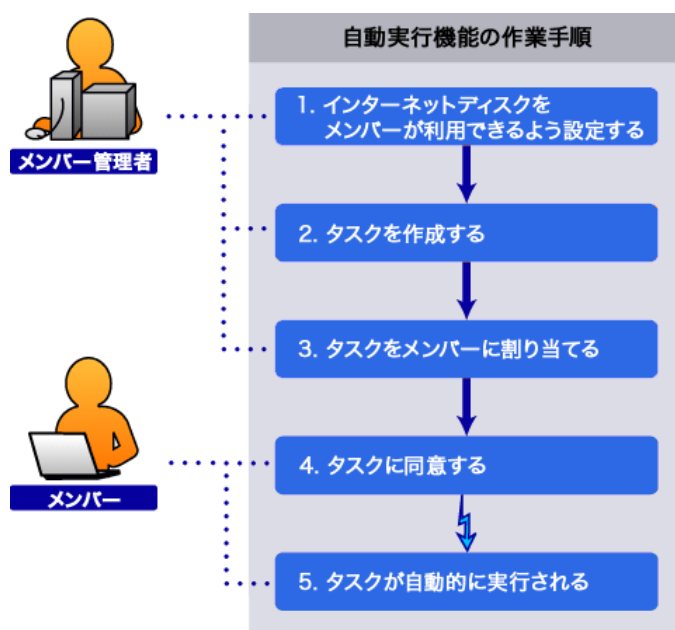
メンバー管理者が、InternetDisk ASP をメンバーが利用できるよう設定します。

メンバー管理者がタスクを作成します

メンバー管理者がタスクをメンバーに割り当てます

メンバーがタスクに同意します

タスクは、スケジュールで設定された日時にメンバーのコンピュータで自動的に実行されます。



インターネット ディスクをメンバーが利用できるよう設定する

自動実行機能を利用する場合は InternetDisk ASP を通常に利用する場合と同じように、InternetDisk ASP を利用するユーザーをメンバーとして登録し、アクセス権限を設定する必要があります。

タスクを作成する

タスクは、メンバー管理者が自動実行管理ツールを使用して作成します。タスクには、ファイル操作やスケジュールが要件にあわせて設定されます。作成したタスクは、あとから変更・削除することも可能です。

補足：タスクデータの保管場所

タスクのデータは、インターネット ディスク上のタスクファイル用の領域に保管されます。タスクデータは、ほかの InternetDisk ASP のデータと同様に、安全に管理・通信されます。

タスクをメンバーに割り当てる

タスクは、割り当てられたメンバーのコンピュータで実行されます。複数のメンバーにタスクを割り当て、同じタスクを複数実行することもできます。一方、どのメンバーにも割り当てられないタスクは、実行されません。

タスクのメンバーへの割り当ては、メンバー管理者が自動実行管理ツールを使用して行います。

タスクに同意する

メンバーに割り当てられたタスクは、メンバー側の自動実行ツールに次の場面で取り込まれます。

- 自動実行ツールの起動時
- 自動実行機能を起動中、タスクを最新の状態に更新した場合
- 自動実行ツール起動後、自動実行管理ツールの【設定-オプション】で指定した時間が経過した

そのメンバーが同意することで実行できる状態になります。メンバーが同意しない限り、タスクは実行されません。新たなタスクが割り当てられたメンバーは、自動実行ツールでタスクの内容を確認し、同意するかしないかを選択することになります。メンバー管理者から見れば、同意するときにタスクの内容をメンバーに確認してもらうことができます。

補足：タスクを変更した場合

メンバー側の自動実行ツールに変更したタスクが自動的に取り込まれ、メンバーはそのタスクに同意するか同意しないかを選択することになります。変更したタスクは、メンバーが同意するまでの間、実行されません。

タスクが実行される

同意されたタスクは、スケジュールで設定された日時に実行されます。このとき、メンバーは自動実行ツールを起動しておく必要があります。

補足：メンバーは、自動実行ツールを起動しておく必要があります

自動実行ツールが起動していない場合、スケジュールで設定された日時がきてもタスクは実行されません。タスクを実行するには、メンバーのコンピュータで OS にログインして自動実行ツールを起動している状態を維持してください。

なお、自動実行ツールが起動していないために実行されなかったタスクは、次のスケジュールで設定された日時がきたときに自動実行ツールが起動していれば、問題なく実行されます。

利用例：定期的なファイルの受け渡し

例えば、取引先に 1 日に 1 回、決まった時刻にインターネット ディスクでファイルを渡さなければならない場面を想定してください。

自動実行機能を利用しない場合

次の手順を実行することでファイルの受け渡しができます。

- メンバー管理者
 1. ファイルを渡す側のユーザーとファイルを受け取る側のユーザー（取引先）をメンバーとして登録し、アクセス権を設定します。
- ファイルを渡す側
 1. お使いのコンピュータ²にファイルを作成します
 2. 毎日決まった時刻に、インターネット ディスクにファイルをアップロードします
- ファイルを受け取る側（取引先）
 1. 毎日決まった時刻に、InternetDisk ASP からファイルをダウンロードします



インターネット上でのファイルの受け渡しは、インターネット ディスクを利用することで便利で安全に行えます。しかし、定期的なファイルを受け渡すためにはファイルのアップロードやダウンロードを繰り返す必要があるため、ファイルを渡す側も受け取る側も手間がかかります。

² お使いのコンピュータから LAN (Local Area Network) でアクセスするコンピュータなども含まれます。

自動実行機能を利用する場合

- メンバー管理者
 1. ファイルを渡す側のユーザーとファイルを受け取る側のユーザー（取引先）をメンバーとして登録し、アクセス権を設定します。
 2. 次の2つのタスクを作成し、割り当てます。
 - ファイル操作の種類が「アップロード」のタスクを作成し、ファイルを渡す側のメンバーに割り当てます
 - ファイル操作の種類が「ダウンロード」のタスクを作成し、ファイルを受け取る側のメンバーに割り当てます
- ファイルを渡す側
 1. ファイルを、お使いのコンピュータ内で所定の位置に作成します
 2. タスクに同意します。
 - スケジュールで設定された日時に、所定のファイルが InternetDisk ASP に自動的にアップロードされます。
- ファイルを受け取る側（取引先）
 1. タスクに同意します。
 - スケジュールで設定された日時に、インターネットディスクの所定のファイルが自動的にダウンロードされます。



自動実行機能を利用する場合、事前に自動実行機能を設定する必要があります。しかし、一度設定してしまえば定期的なアップロードやダウンロードが自動的に行われるようになるため、ファイルを渡す側も受け取る側も手間が少なくなります。

補足：ファイルのバックアップ

自動実行機能を使うと、ファイルの定期的なバックアップを自動化できます。バックアップするときは、バックアップしたいファイルが InternetDisk ASP に定期的アップロードされるように自動実行機能を設定します。スケジュールで設定された日時に、ファイルが InternetDisk ASP に自動的にアップロードされます。ファイルを復旧するには、インターネットディスクからバックアップしたファイルを手動でダウンロードします。

第2部 自動実行機能 メンバーマニュアル

メンバーの作業

自動実行を実現するために、メンバーは必要に応じて次の作業を行います。

- 自動実行ツールを入手し、セットアップする
- 自動実行ツールを起動・終了する
- タスクに同意するかしないかを選択する
- 自動実行ツールの実行環境を設定する
- タスクの実行結果を表示する

自動実行ツールを入手し、セットアップする

自動実行ツールの入手先

自動実行ツールの入手先は、「InternetDisk ASP ツールのダウンロード」サイトです。このサイトには、Windows 用と、macOS および Linux 用が用意されています。

OS	自動実行ツール
Windows/macOS/Linux	IdiskRunner.jar

※ 最新の詳細情報は、InternetDisk ASP の Web サイト (<http://www.idiskasp.com/member/automatic.html>) を参照してください。

補足：自動実行機能の契約をしていない場合

自動実行ツールは使用できません。

自動実行ツールをセットアップする

1. Version 8 の Java 実行環境 (JRE) がインストールされているか確認します。
インストールされていない場合は、JRE をインストールします。
2. IdiskRunner.jar をダウンロードして、任意のフォルダ (ディレクトリ) にコピーします

補足：JRE のインストール

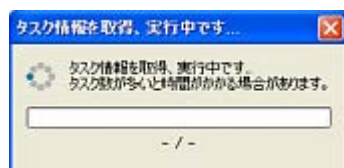
JRE (Java 実行環境、Java Runtime Environment) は、プログラミング言語 Java で作成されたプログラムを実行するために必要な環境 (プログラム) です。自動実行ツールは Java で作成されたプログラムで、利用するには Version 8 の JRE がお使いのコンピュータにインストールされている必要があります。

自動実行ツール起動時の動作

起動時に、自動実行ツールは次のように動作します。

- 1 InternetDisk ASP のサーバーに接続し、InternetDisk ASP のメンバーアカウントでログインします。
- 2 インターネット ディスクのサーバーにある、メンバーに割り当てられたタスクファイルが読み込まれます。

タスクファイルが読み込まれている間は、次のようなメッセージが表示されます。



自動実行ツールは、読み込まれたタスクファイルに記述されたタスクを実行します。

- 3 **未確認のタスクがある場合、タスクに同意するかしないかを選択します。**
タスクは、メンバーが同意しなければ実行されません。
→P.20 タスクに同意するかしないかを選択する
- 4 **メイン画面が表示されます。**
このとき、スケジュールで設定された日時がきていないタスクは実行を待機する状態になります。
- 5 **スケジュールで設定された日時がきたら、タスクに含まれるファイル操作が自動実行されます。**
このとき、スケジュールで設定された日時がきていないタスクは実行を待機する状態になります。

補足：タスクファイルとは

タスクファイルはタスクの設定内容を記述したファイルで、InternetDisk ASP のサーバーに配置されています。こうしたタスクファイルは、メンバー管理者がメンバー管理ツールでタスクを作成・変更し、メンバーへの割り当てなどを設定した結果として作成されます。

自動実行ツールを起動する

自動実行ツールを起動する

- Windows の場合
 1. エクスプローラーを起動します。
 2. セットアップ時に自動実行ツールをコピーしたフォルダーに移動します。
 3. 「IdiskRunner.jar」を実行します。
- macOS の場合
 1. Finderなどで、セットアップ時に自動実行ツールをコピーしたフォルダに移動します。
 2. 「IdiskRunner.jar」をダブルクリックし、実行します。
- Linux の場合
 1. ターミナルエミュレータを起動します。
 2. 「cd」コマンドで、セットアップ時に自動実行ツールをコピーしたディレクトリに移動します。
 3. 「java -jar IdiskRunner.jar」コマンドを実行します。

補足：Windows を複数のユーザーが利用している場合

ほかのユーザーがすでに自動実行ツールを起動している場合は、起動できません。

自動実行ツールを起動できない場合

次のメッセージが表示され、自動実行ツールが起動できない場合があります。

すでに自動実行ツールが起動しています。
自動実行ツールは同時に2つ以上起動できません。

この場合、すでに自動実行ツールが起動していないかを確認してください。自動実行ツールは同時に2つ以上起動できません。

ネットワーク接続を設定する

自動実行機能を利用する場合は、インターネットを通じて InternetDisk ASP にアクセスできるように、ネットワーク接続を設定する必要があります。

事前にインターネット接続を完了させる

コンピュータがインターネットに接続されていない場合、自動実行機能は利用できません。

プロキシの設定を確認する

普段社内などで自動実行機能を利用しているノートパソコンはプロキシを利用してインターネットに接続している場合が多いため、モバイル環境で利用する場合は設定の変更が必要な可能性が高いといえます。例えば、プロキシを経由しないでインターネットに接続するモバイル環境では、プロキシを利用しないように自動実行ツールの設定を変更する必要があります。

→P23 プロキシを設定する

注意：モバイル環境で自動実行機能を利用するには

自動実行機能は、インターネットに接続できる状態であればモバイル環境で利用することもできます。そのため、自動実行ツールをセットアップしたノートパソコンを外出先などに持ち出して自動実行機能を利用することもできます。

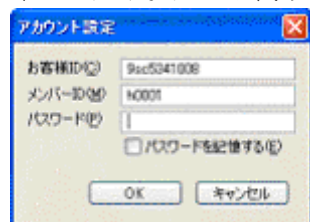
ノートパソコンをダイヤルアップ接続で使うときは、自動実行ツールを起動する前に接続を完了させておいてください。また、プロキシの設定を確認してください。

ログイン

自動実行ツールを利用するためには、InternetDisk ASP のメンバーアカウント³でログインする必要があります。ログインは、自動的にされる場合と、[アカウント設定] ダイアログボックスが表示されてそこに入力した情報を元にされる場合があります。

[アカウント設定] ダイアログボックス

自動実行ツールをセットアップして最初に起動するときなどには、[アカウント設定] ダイアログボックスが表示されます。



この場合、次の情報を入力します。

- お客様 ID
- メンバーID
- (メンバーの) パスワード

[パスワードを記憶する] を にするとパスワードが記憶され、次回自動実行ツールを起動したときには自動的にログインします。そのときには、今回ログインしたときと同じお客様 ID・メンバーID・パスワードを使ってログインを開始します。

3 メンバーアカウントの詳細は、『InternetDisk ASP メンバーマニュアル』を参照してください。

補足: パスワードを記憶する

パスワードを記憶する場合、記憶したパスワードやIDは、Windowsのログインユーザーごとに区別されます。

ただし、複数人で同じWindowsのログインユーザーを共有して利用している場合にパスワードを記憶するように設定すると、ほかの人がInternetDisk ASPにログインする危険性が高くなります。

パスワード有効期限の警告

InternetDisk ASPへログインするときに使うパスワードには、メンバー管理者から有効期限が設定される場合があります。長期間同じパスワードを使い続けることで、パスワードを破られる可能性が高くなることを防ぐための機能です。こうした場合、有効期限が近くなると次のメッセージが表示されます。

ご利用のアカウントでは、パスワードの有効期限はあと X 日です。
有効期限までにパスワードを変更してください。
この有効期限はメンバー管理者によって定められています。
パスワードを変更するには、[設定 - パスワードの変更]を選択してください。

この場合、パスワードを変更するようにしてください。

→P25 パスワードを変更する

パスワード有効期限の詳細は、メンバー管理者にお問い合わせください。

ログイン有効期限の警告

メンバーは、メンバー管理者にログイン有効期限を設定される場合があります。そうした場合、ログイン有効期限が近くなると、メンバーには次のメッセージが表示されるようになります。

ご利用のアカウントでは、ログイン有効期限は YYYY/MM/DD までです。
この有効期限はメンバー管理者によって定められています。

ログイン有効期限を過ぎると、メンバーはログインできなくなります。詳細は、メンバー管理者にお問い合わせください。

パスワード有効期限切れのエラー

パスワードの有効期限が切れた場合、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

パスワードの有効期限が切れました。
パスワードを変更するには、[設定 - パスワードの変更]を選択してください。

この場合、パスワードを変更しなければログインできません。

→P25 パスワードを変更する

補足: パスワード有効期限が切れてもログインできる場合

メンバー管理者の設定によっては、パスワード有効期限が過ぎたあと、ログインのたびに次のメッセージが表示されるようになる場合もあります。

パスワードの有効期限が過ぎています。
この有効期限はメンバー管理者によって定められています。
パスワードを変更するには、[設定 - パスワードの変更]を選択してください。
この場合、ログイン自体は可能です。

ログインできない場合

ログインできない場合、次のような原因が考えられます。

お客様 ID・メンバーID・パスワードの入力誤り

[アカウント] ダイアログボックスに入力した情報に誤りがないかももう一度確認してください。誤りが見つかったら、入力する情報を修正してログインし直してください。

パスワードが変更されている

自動ログインしていた場合、パスワードの変更が原因でログインできなくなることがあります。Webビューでパスワードを変更した場合、ディスクマネージャでログインするときのパスワードも変更されることとなります。また、メンバー管理者がメンバーのパスワードを変更する場合があります。こうした場合は新しいパスワードを使ってログインを開始し直してください。

パスワードロックが作動している

メンバー管理者がパスワードロック機能を有効にしている場合、連続したログインの失敗があると、パスワードロックが作動したことを表す次のメッセージが表示され、ログインできなくなります。

認証に失敗しました。

次のような原因が考えられます。

- ・パスワードロック（連続してログインに失敗したため、パスワードロックが作動しました。）

（パスワードロックの解除は、メンバー管理者に依頼してください。）

こうした場合はメンバー管理者にご相談ください。なおパスワードロックが作動したときは、メンバー自身の誤った操作が原因の場合のほか、不正な侵入者がメンバーのアカウントを使って InternetDisk ASP にログインしようとしていることが考えられます。

IPアドレス制限／ログイン制御

次のメッセージが表示される場合は、IPアドレス制限またはログイン制御が原因でログインに失敗しています。

認証に失敗しました。

次のような原因が考えられます。

- ・IPアドレス制限（お使いのネットワークからは、接続が許可されていません）
- ・ログイン制御（ログイン許可時間を過ぎているか、ログインが許可されていない日時に接続しています。）

（パスワードロックの解除は、メンバー管理者に依頼してください。）

この場合、ログインできない原因は次のどれかです。いずれの場合も、メンバー管理者にご相談ください。

- IPアドレス制限

メンバー管理者が IP アドレス制限して、ログインできるのを指定したネットワーク上のコンピュータからだけに設定することがあります。そうした場合に、指定外のネットワーク上にあるコンピュータからログインしようとするすると IP アドレス制限のエラーになります。

- ログイン制御

メンバー管理者はログイン制御で、指定した曜日や時間帯、またはログイン許可期間以外の日時のログインを制限できます。そうした場合に指定外の曜日や時間帯または日時にログインしようとするすると、ログイン制御のエラーになります。

自動実行ツールを終了する

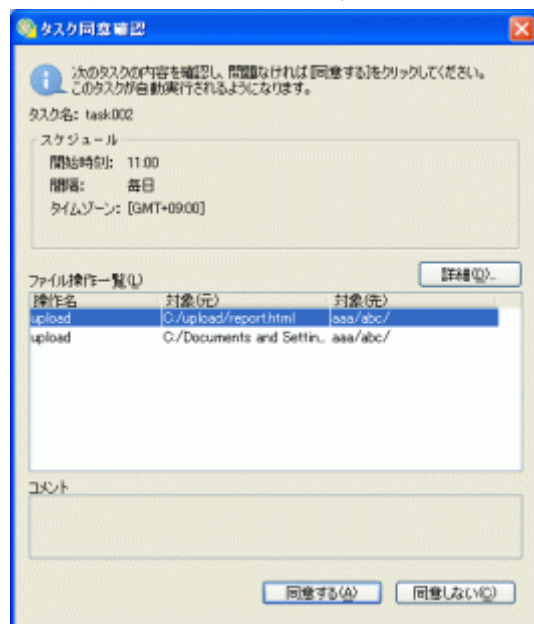
- 1 [ファイルー自動実行ツールの終了] を選択します。
- 2 実行中または待機中のタスクがある場合、[終了確認] ダイアログボックスが表示されます。
メッセージを確認し、[はい] をクリックします。
- 3 自動実行ツールが終了します。

注意：実行中または待機中のタスクがある場合

自動実行ツールを終了すると、割り当てられたタスクが実行されなくなります。そのため、実行する必要があるタスクが割り当てられているときは、自動実行ツールを終了しないでください。また、OS からログアウトした場合などもタスクは実行されなくなります。

タスクに同意するかしないかを選択する

自動実行ツールを起動するとき、未確認のタスクがある場合は、[タスク同意確認] ダイアログボックスが表示されます。未確認のタスクは、メンバー管理者が新たにタスクを割り当てたあとなどにできます。



このダイアログボックスでタスクに「同意する」か「同意しない」かを選択します。

同意する

タスクが自動実行されるようになります

同意しない

タスクは実行されません

補足：すべてのタスクに自動的に同意する

メンバー管理者が割り当てるすべてのタスクに自動的に「同意する」ように設定できます。この場合、[タスク同意確認] ダイアログボックスは表示されません。

→P.25 タスク内容の同意について設定する

タスクに同意する場合の注意点

タスクに同意する場合には InternetDisk ASP に関するファイル操作、例えば InternetDisk ASP へのファイルのアップロードが自動的に行われることとなります。そのため、タスクの内容によっては機密データの漏えいなど、思わぬ問題が発生することがあります。こうした問題の発生を防ぐため、タスクに同意する場合には次の点を確認してください。

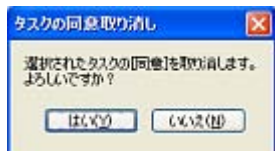
- ファイル操作の内容
- ファイルの操作の種類
- 操作元のファイルまたはフォルダ
- 操作先のファイルまたはフォルダ
- スケジュール

そのほか不明な点がある場合は、メンバー管理者にお問い合わせください。

タスクの同意を取り消す

いったん「同意する」の状態にしたタスクは、メイン画面から次の手順で同意を取り消し、「同意しない」の状態にすることができます。この場合、タスクは実行されなくなります。

- 1 タスク名一覧でタスクを選択します。
- 2 [設定-タスクの同意取り消し]を選択します。
[タスクの同意取り消し]メッセージが表示されます。



- 3 [はい]をクリックします。
選択していたタスクが「同意しない」の状態になります。

タスクを最新の状態に更新する

- 1 [表示-最新の状態に更新]を選択します。
- 2 [更新確認]メッセージが表示されるので、[はい]をクリックします。

実行中または待機中のタスクはすべて終了し、InternetDisk ASPのサーバーにあるタスクファイルが再読み込みされます。このとき、未確認のタスクがある場合は、[タスク同意確認]ダイアログボックスが表示されます。

→P.20 タスクに同意するかしないかを選択する

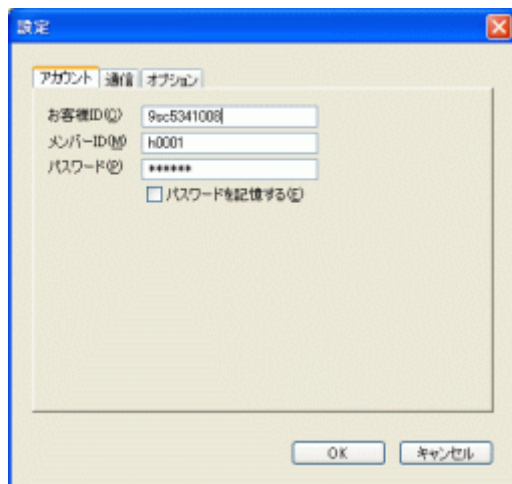
自動実行ツールの実行環境を設定する

自動実行ツールでは、実行環境としてアカウント・通信環境・オプションを設定できます。特に、アカウントや通信環境はインターネットディスクのサーバーと接続するために正しく設定する必要があります。設定の手順は次のとおりです。

- 1 [設定-設定]を選択します。
[設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 各シートで設定します。
[アカウント]シート
→P.22 アカウント情報を設定する
[通信]シート
→P.22 通信環境を設定する
[オプション]シート
→P.24 オプションを設定する
- 3 [OK]をクリックします。

アカウント 情報を設定する

[設定] ダイアログボックスの [アカウント] シートでは、InternetDisk ASP のメンバーのアカウント 情報を設定します。



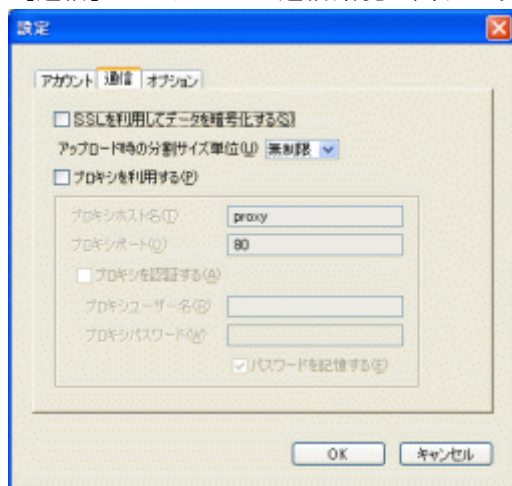
設定するのは次の情報です。

- お客様 ID
- メンバーID
- パスワード

このアカウント 情報は、InternetDisk ASP のサーバーへログインするために用いられます。

通信環境を設定する

[通信] シートでは、通信環境に関する項目を設定します。



SSL を利用してデータを暗号化する

通常は初期状態のままオンにします。オンの場合、インターネット 上でデータが漏えいする危険性が少なくなります。

アップロード 時の分割サイズ単位

通常は初期状態のまま、ファイルを分割しないことを表す「無制限」にします。

データの転送サイズが制限され、ファイルを分割しなければならない場合には、分割サイズ単位を「128KB」「256KB」「512KB」「1M」から選択します。こうした制限が行われるのは、プロキシを利用している場合などです。

プロキシを設定する

インターネットに接続するときにプロキシサーバーを利用している場合は[プロキシを利用する]をオンにして、次の項目を設定します。

- プロキシホスト (プロキシサーバー) 名
- プロキシポート
- プロキシサーバーで認証が必要かどうか。必要な場合は次の項目
 - プロキシユーザー名
 - プロキシパスワード

プロキシを利用しているかどうかや、プロキシの各項目に設定する値がわからない場合は、ネットワークの管理者 (社内の担当者・プロバイダなど) に問い合わせてください。

プロキシ設定をブラウザから確認する

プロキシの各項目に設定する値は、Internet Explorer などブラウザの設定からわかる場合があります。Internet Explorer のプロキシ設定は、次の手順で確認できます。

[ツールインターネット オプション] を選択します。

[インターネット オプション] ダイアログボックスが表示されます。

[接続] シートで、 [LAN の設定] をクリックします。

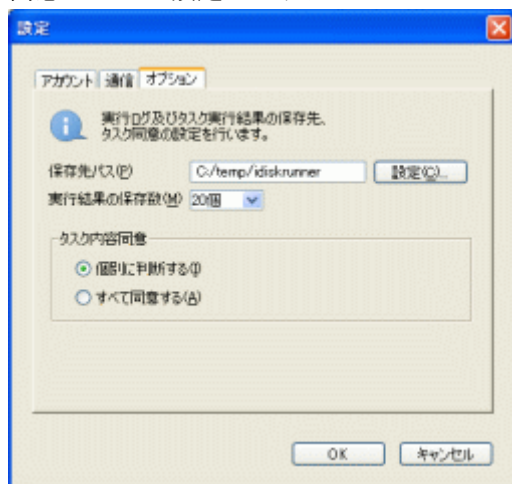
[ローカル エリア ネットワーク (LAN) の設定] ダイアログボックスが表示されます。

手動でプロキシを設定している場合、[プロキシ サーバー] 欄にプロキシの設定内容が表示されます。また、プロキシを自動設定している場合⁴は「設定を自動的に検出する」か「自動構成スクリプトを使用する」がオンになっており、これをオフにすると Internet Explorer からインターネットに接続できなくなります。

⁴ プロキシを自動設定している場合に設定内容を確認するには、ネットワークやプロキシに関する詳細な知識が必要です。

オプションを設定する

[設定] ダイアログボックスの [オプション] シートでは、ログ出力先と、タスク内容の同意について設定します。



ログ出力先を設定する

[保存先パス] では、自動実行ツールのログを、お使いのコンピュータのどのフォルダに出力するかを設定します。

ログは、自動実行ツールの動作に不具合が発生した場合の原因究明などに用いられます。初期状態では、ログ出力先は OS で設定されたユーザーごとのホームディレクトリです⁵。

補足：ログと実行結果

自動実行管理ツールや自動実行ツールでは、動作の記録をログと実行結果に残します。この2つは、異なる用途で用いられます。

ログ

各ツールで問題が発生した場合に、原因を究明する手がかりとして用います。例えば、問題が発生してサポートにご連絡される場合に、ログを添付していただくと問題の解決が早くなることがあります。

実行結果

メンバー管理者やメンバーが自動実行の結果を確認するために用います。

→P26 自動実行結果ビューアを起動する

⁵ユーザーごとのホームディレクトリは、Windows 10 の場合は C:\Users\<ユーザー名>、macOS の場合は /Users/<ユーザー名>、Linux の場合は /<ユーザー名> です。ただし、いずれの OS の場合でも、お客様のコンピュータの環境設定によって異なる場合があります。

タスク内容の同意について設定する

「タスク内容の同意」では、新しいタスクがメンバー管理者から割り当てられた場合の同意方法を設定します。初期状態では、「個別に判断する」です。

個別に判断する

新しいタスクがメンバー管理者によって割り当てられた場合、自動実行ツールの起動時に [タスク同意確認] ダイアログボックスで同意するかどうかを設定します

すべて同意する

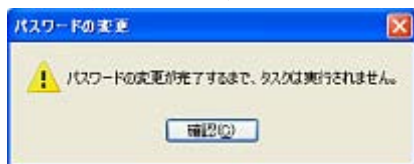
すべてのタスクに自動的に同意します。[タスク同意確認] ダイアログボックスは表示されなくなります。

パスワードを変更する

自動実行ツールでは、InternetDisk ASP にログインするときのパスワードを変更できます。

[設定-パスワードの変更] を選択します。

次のメッセージが表示されます。



[確認] をクリックします。

[パスワードの変更] ダイアログボックスが表示されます。



[現在のパスワード] に現在使っているパスワードを入力し、[新しいパスワード]

[新しいパスワードの再入力] に新しいパスワードを入力します。

新しいパスワードは、確認のため同じものを2回入力します。

設定が完了したら [OK] をクリックします。

パスワードが変更されます。

補足：パスワードはほかのツールと共通です

ここでパスワードを変更すると、Webビューやディスクマネージャを使う場合でも、変更したパスワードでログインすることになります。

補足：新しいパスワードは、今までのパスワードとは違うものにしてください

新しいパスワードを、現在のパスワードや過去に使っていたパスワードと同じものにしようとする、エラーが発生してパスワードを変更できません。

タスクの実行結果を確認する

タスクの実行結果を表す実行結果ログは、タスク実行時にタスクを実行したマシン上に生成され、タスク終了時にサーバーに格納されます。

タスクを実行したマシン上に生成された実行結果ログの内容は、自動実行ツールから自動実行結果ビューアを起動することで表示できます。

自動実行結果ビューアを起動する

- 1 [結果－実行結果] を選択します。

自動実行結果ビューアが起動し、タスクの実行結果が表示されます。



付録

付録

自動実行ツール・自動実行管理ツール エラーメッセージ一覧

エラーメッセージ	備考
原因不明のエラーが発生しました。	
出入力エラーが発生しました。	
ファイルはディレクトリとして存在しています。	
ディレクトリはファイルとして存在しています。	
ファイルが削除されませんでした。	
接続が拒絶されました。	
指定されたパスが不正でした。	
ホストが見つかりませんでした。	通信環境を見直すとともに、InternetDisk ASP の運用状況を確認してください。
ソケットエラーが発生しました。	
タスクに含まれる内容が不適切なために正しく読み込めませんでした。メンバー管理者に連絡してください。	
ファイルのなかの設定値が不正でした。	
ファイルのなかに、必要な設定値が見つかりませんでした。	
ファイルのなかに、必要な設定が見つかりませんでした。	
スケジュールの日が設定されていませんでした。	
スケジュールが設定されていませんでした。	
タイムゾーン名が設定されていませんでした。	
操作が設定されていませんでした。	
削除操作のパスが設定されていませんでした。	
ダウンロード操作の先が設定されていませんでした。	
ダウンロード操作の元が設定されていませんでした。	
タスク名が設定されていませんでした。	
アップロード操作の先が設定されていませんでした。	
アップロード操作の元が設定されていませんでした。	
IDisk パスが設定されていませんでした。	
ローカルパスが設定されていませんでした。	
タスクにある操作数が上限を超えました。	
割当数が上限を超えました。	
日付のフォーマットが不正でした。	
月と日にちの値が不正でした。	
ファイルを暗号化するとき、エラーが発生しました。	
暗号化されていたファイルを復号するとき、エラーが発生しました。	
結果ファイル名のフォーマットが不正でした。	
処理が中断されました。	

エラーメッセージ	備考
プロキシが不正なレスポンスを受け取りました。	
リクエストが不正です。	
ローカルディレクトリの作成に失敗しました。	
ルートディレクトリを削除しようとした。	
ローカルディレクトリの移動に失敗しました。	
ルートディレクトリの名前は変更できません。	
ローカルファイルのタイムスタンプ設定に失敗しました。	
ファイル転送時に何らかの原因により正しいファイルが転送できませんでした。	
InternetDisk へ接続されていません。	
リソースの現在の状態と矛盾しているため、リクエストを完了できませんでした。	
時刻の変換に失敗しました。	
リクエストエンティティが大きすぎます。	
指定されたファイル/ディレクトリはすでに存在します。	
クライアントからの拡張をサーバーが実行できませんでした。	
レスポンスボディの解析に失敗しました。	
サーバーでの処理が失敗しました。	
ファイルの情報の一部取得に失敗しました。	
サーバーがリクエストの実行を拒否しました。	
プロキシでタイムアウトが発生しました。	
対象 URL はサーバー上に存在しません。	
サーバーが HTTP プロトコル・バージョンをサポートしていません。	
通信中に原因不明のエラーが発生しました。	
ファイルの種類に矛盾がありました。	
レスポンスが不正です。	
サーバーの容量が不足しています。	
サーバーで致命的なエラーが発生しました。	
Content-Length ヘッダが指定されていません。	
ディレクトリ配下にあるファイルに対してのロックに失敗しました。	
対象がロックされているので処理できません。	
ロックに失敗しました。	
サーバーで許可されていないメソッドを利用しました。	
自動実行オプションに契約していません。	
指定された操作を行うための実行権がありません。	
この操作はサポートされていません。	
Accept-Charset ヘッダで指定された文字種のなかに扱える文字種がありませんでした。	
テンポラリディレクトリの作成に失敗しました。	
リクエストを送信中にエラーが発生しました。	
リクエストヘッダーを送信中にエラーが発生しました。	
タスク、メンバーに対する配布情報がありません。	

エラーメッセージ	備考
%s は見つかりませんでした。	この場合の「%s」は、操作の対象などを表す文字列です
指定されたローカルディレクトリが見つかりません。	
指定されたローカルファイルが見つかりません。	
指定されたメンバーが存在しません。	
指定されたタスクが存在しません。	
指定された対象が見つかりません。	
サーバーがサポートしていません。	
ローカル側がディレクトリではありません。	
ローカル側がファイルではありません。	
ロックがかけられていません。	
HTTP 通信をオープンにできませんでした。	
サーバー側がディレクトリではありません。	
サーバー側がファイルではありません。	
HTTP 通信はすでにオープンされています。	
タスクに対するメンバー割当数の総計が上限を超えました。	
一部のファイル/ディレクトリに対して処理が失敗しました。	
ロックトークンが異なります。	
プロキシの認証に失敗しました	
分割 PUT の指定範囲が不正です。	
サーバーの待ち時間内にリクエストを発行できませんでした。	
サーバーが一時的な過負荷があるいはサーバーのメンテナンスのため、リクエストを扱うことができませんでした。	
認証に失敗しました。	
ヘッダーが見つかりません。	
検索条件に含まれる値リテラルが不正です。	
リクエストのフォーマットはサーバーでサポートされていないものです。	
パスが長すぎます。	
ファイルのアップロード中にウイルスが検出されました。	
ファイルのダウンロード中にウイルスが検出されました。	
日付のフォーマットが不正でした。	
月、または日の値が不正でした。	
アカウント情報又はプロキシ情報が設定されていません。	
お客様 ID が設定されていません。	
メンバーID が設定されていません。	
プロキシホストが設定されていません。	
プロキシポートが設定されていません。	
プロキシポートに無効な値が設定されています。	
ログの保存先ディレクトリが何らかの理由により書き込めません。 設定-オプションで保存先を変更してください。	
ディレクトリはファイルとして存在しています。	
タスク名が設定されていません。	

エラーメッセージ	備考
タスク名の文字数は40文字までです。	
開始時刻のときに無効な値が設定されています。	
開始時刻の分に無効な値が設定されています。	
日付に無効な値が設定されています。	
日単位の間隔に無効な値が設定されています。	
日にちが設定されていません。	
曜日が設定されていません。	
週が設定されていません。	
第六週のみ場合は土、日以外の曜日が設定できません。	
週間隔に無効な値が設定されています。	
ファイル操作が指定されていません。	
設定した操作数が上限を超えました。	
削除対象が設定されていません。	
アップロード元が設定されてません。	
アップロード先が設定されてません。	
ダウンロード元が設定されていません。	
ダウンロード先が設定されていません。	
共同編集ファイルを含むフォルダや共同編集ファイルに対しては、作業できません。	
認証に失敗しました。 次のような原因が考えられます。 ・パスワードロック（連続してログインに失敗したため、パスワードロックが作動しました。パスワードロックの解除は、メンバー管理者に依頼して下さい。）	
認証に失敗しました。 次のような原因が考えられます。 ・IPアドレス制限（お使いのネットワークからは、接続が許可されていません） ・ログイン制御（ログイン許可期間を過ぎているか、ログインが許可されていない日時に接続しています。）	
パスワードが不適切です。 6文字以上、15文字以内で指定してください。 使用できる文字は半角の英数文字と、ピリオド「.」、ハイフン「-」、アンダースコア「_」です。	自動実行ツールのみ
パスワードの有効期限が過ぎています。 この有効期限はメンバー管理者によって定められています。 パスワードを変更するには、[設定-パスワードの変更]を選択してください。	自動実行ツールのみ
パスワードの有効期限が切れました。 パスワードを変更するには、[設定-パスワードの変更]を選択してください。	自動実行ツールのみ
2GBを超えるファイルはアップロードできません。	自動実行ツールのみ

エラーメッセージ	備考
パスワードの有効期限が過ぎています。 この有効期限はメンバー管理者によって定められています。 パスワードは、メンバー管理者ツールで変更してください。	自動実行管理ツールのみ
パスワードの有効期限が切れしました。 パスワードは、メンバー管理者ツールで変更してください。	自動実行管理ツールのみ